

# 「望郷の道」展 第2弾

佐賀県出身の作家・北方謙三氏による大河小説『望郷の道』。この舞台となった富士町で、2009年春から当展を開き、多くの反響をいただきました。北方氏の曾祖父であり小説のモデルとなった富士町出身の実業家、森平太郎氏の足跡を、来年3月まで常設展として紹介しています。リピーターの方のためにも、随時展示内容を更新しています。どうぞご観覧ください。

項目	内容
期間	平成23年3月31日まで
時間	10時から18時（日曜日は17時まで）（月曜日は休館です。）
内容	<p>パネル展示のいろいろ 「キャラメルにかけた男たち」「富士町、望郷の景色」「新高の足跡、富士町の記憶」「キャラメル王国、佐賀」</p> <p>展示ケース 新高製菓の出版物、新高キャラメルパッケージ(複製)、森永ミルクキャラメル発売記念切手など</p> <p>関連資料の展示 壁面パネル、閲覧ファイル 北山公論（当時の新聞）や、森平太郎さんが寄付された北山小講堂の写真、昭和8年当時の台北市地図など</p> <p>展示ケース 昭和30年代の新高製菓のお菓子のおまけ</p> <p><a href="#">👉『望郷の道』ポスター</a>（948KB;PDFファイル）</p> <p>『望郷の道』主人公の藤正太と、そのモデルとなった新高製菓創業者・森平太郎さんのゆかりの地を巡ってみませんか。</p> <p><a href="#">👉富士町内ウォーク「望郷の道マップ」(日本語)</a>（499KB;PDFファイル）</p> <p><a href="#">👉富士町内ウォーク「望郷の道マップ」(韓国語)</a>（421KB;PDFファイル）</p> <p><a href="#">👉富士町内ウォーク「望郷の道マップ」(中国語)</a>（279KB;PDFファイル）</p>
場所	佐賀市立図書館富士館（佐賀市富士町大字古湯2624番地 フォレストふじ内）
問合せ先	佐賀市立図書館富士館 電話番号0952-58-3590

[佐賀県立図書館のトップページへ](#)

富士町の写真と本でたどる

# 「望郷の道」展

第2弾

観覧自由

『望郷の道』を、そして、故郷を愛する人たちへ。

佐賀県出身の作家・北方謙三氏による大河小説『望郷の道』。

この舞台となった富士町で、2009年春から展覧会を開き、多くの反響をいただきました。この秋からは新たな資料を加え、北方氏の曾祖父であり小説のモデルとなった

「新高製菓」創業者、森平太郎氏の足跡を紹介します。

1冊の本から始まった感動を、多くの人々に伝えるために――。

展示内容は、随時追加・更新していきます

平成22年

会期 9月1日(火)～3月末(予定)

10時～18時開館[月曜日休館] ※詳しくは図書館カレンダーをご参照ください。

場所 佐賀市立図書館 富士館

佐賀市富士町大字古湯 2624 番地(フォレストふじ内)

お問い合わせは、佐賀市立図書館 富士館 (TEL 0952-58-3590) まで

# 望郷の道MAP

『望郷の道』主人公の藤正太と、そのモデルとなった新高製菓創業者・森平太郎さん。この両者にゆかりの深いスポットをめぐるみましょう。

小説の中で藤正太が家族で杉を植えた山。今は別荘が多く建ち並びます。

小説の中で主人公の正太は藤家の婿養子として、北九州から古場へ来ました。モデルの森平太郎さんは幼い頃に大和町川上から古場村へ養子にきたそうです。

北山小中一貫校の一画にあります。森平太郎さんが昭和8年に、火事で消失した講堂を寄付したことから建立されました。

富士町栗並地区で評判の「たなかのパン」。その初代は、台湾時代の森平太郎さんの下で修行を積んだそうです。

平成20年にオープンした富士町初の公共図書館。森平太郎さんの資料を収集保存しています。

森平太郎さん出世の地・大和町川上の歴史ある寺院・実相院。山門と石段の近くに、平太郎さん・妻エイさんそれぞれの名が刻まれた小さな石碑があります。

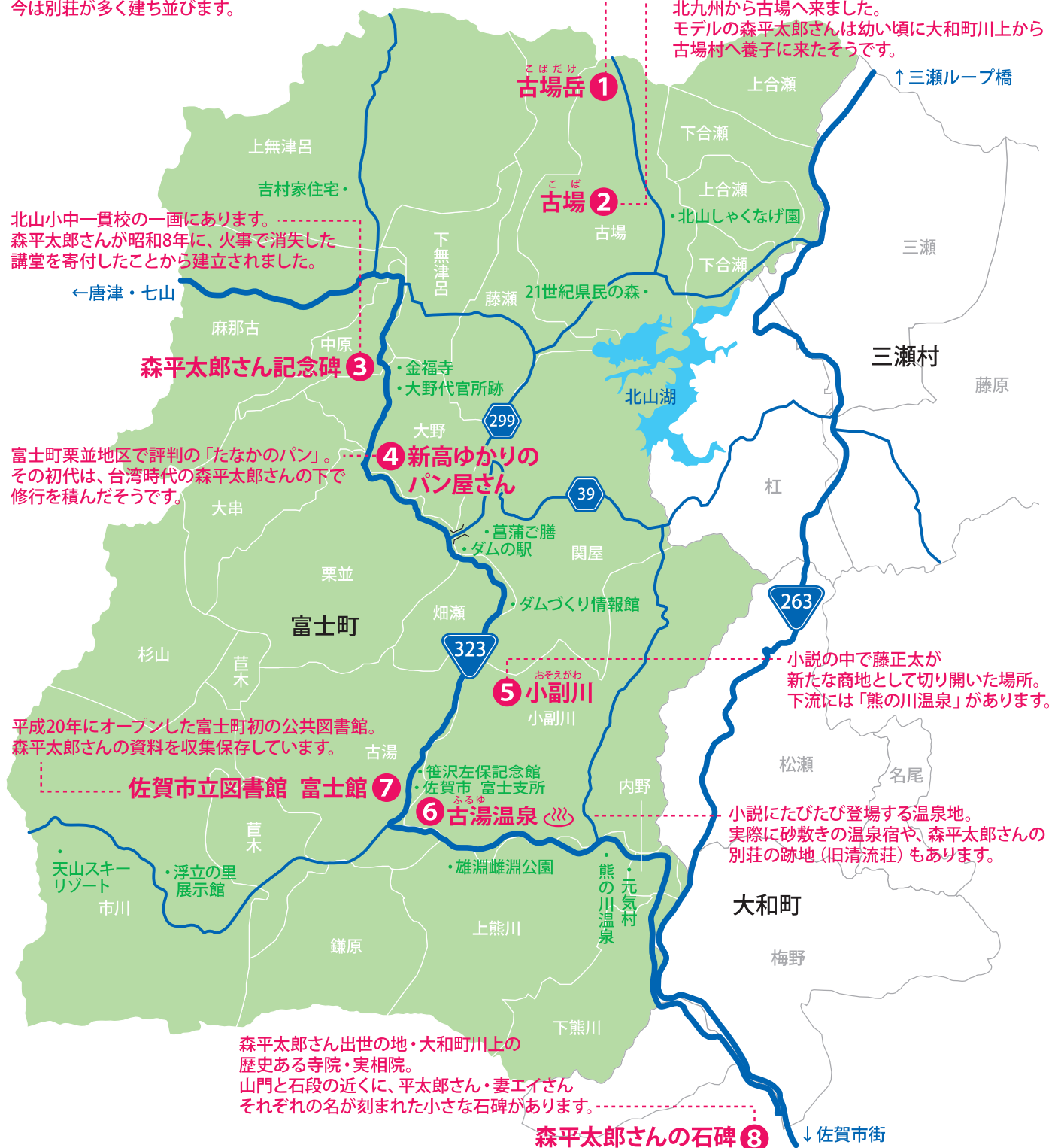
## 「キャラメル王国」佐賀

かつて日本4大キャラメルメーカーと謳われたのは、森永製菓、江崎グリコ、明治製菓、そして新高製菓でした。そのうち森永・グリコ・新高の3社の創業者が、なんと佐賀県出身！シュガーロード（長崎街道）によりお菓子文化が栄えた佐賀は、キャラメル王国でもあったのです。

## 富士町が生んだ実業家、森平太郎さん

明治2(1869)年10月、大和町川上生まれ。幼い頃に養子として古場村（現富士町）へ。北山村中原で菓子屋を営みます。明治38(1905)年、妻エイとともに台湾へわたり、新高製菓を創業。台湾産バナナを使ったキャラメルや新高ドロップなどを発売し、大ヒットします。昭和5(1930)年には東京営業所、5つの工場（台北・大阪・東京・大連・千葉）、台北の一六軒本店、3つの出張所（名古屋・福岡・小倉）、内外451の特約店をもつまでに。従業員数は1000人以上に上ったそうです。

（参考：「菓子店経営の繁昌秘訣」1930年刊、「富士町誌」1968年刊）





# 망향의 길 MAP

『망향의 길』의 주인공인 후지 쇼타와, 그 모델이 된 니타카 제과 창업자·모리 헤타로.이 두 인물과 연이 깊은 곳을 둘러 봅시다.

소설 속에서 후지 쇼타가 자신의 가족과 함께 삼나무를 심은 산. 지금은 많은 별장들이 들어서 있습니다.

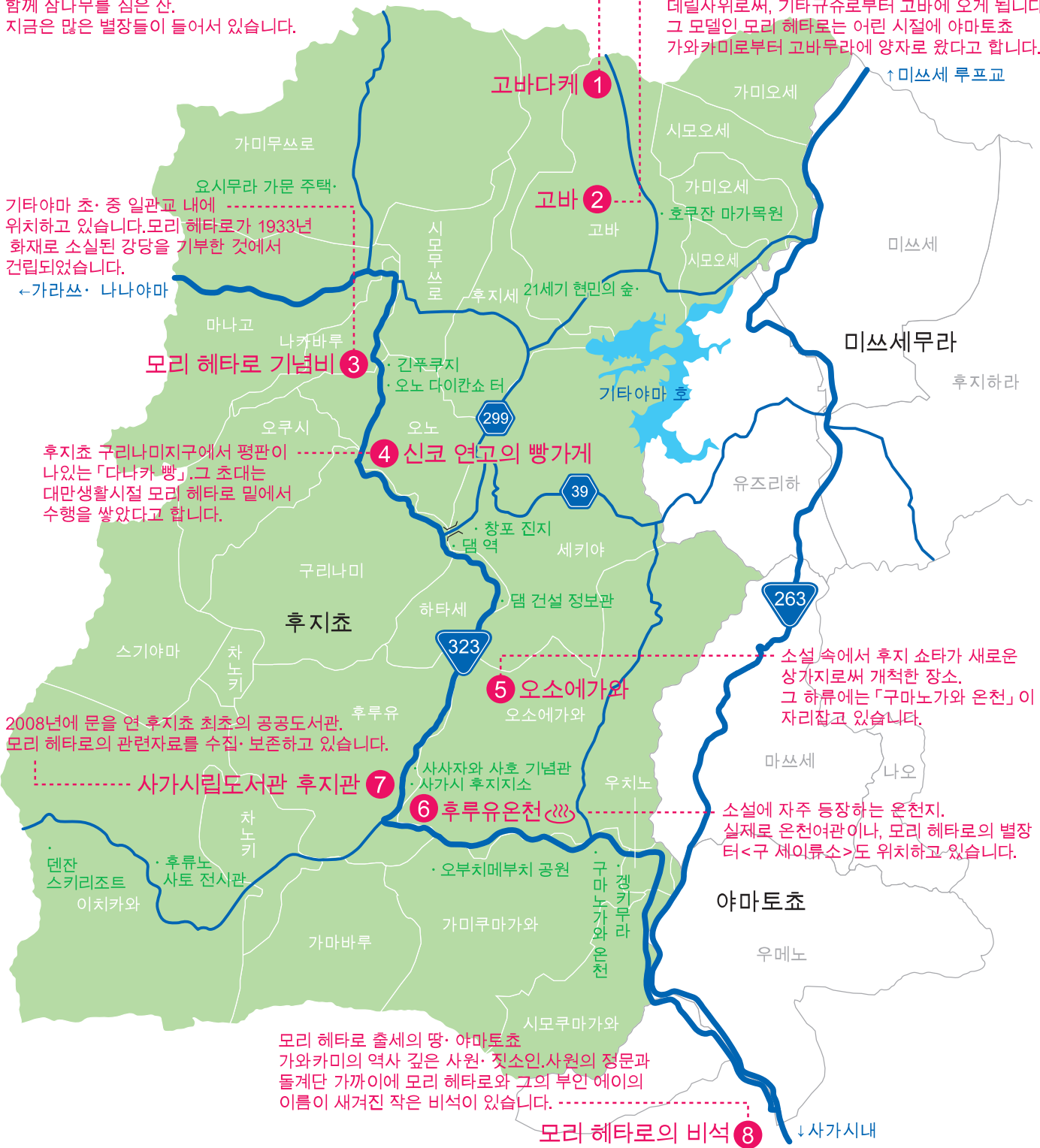
소설 속에서 주인공인 쇼타는 후지가문의 데릴사위로써, 기타큐슈로부터 고바에 오게 됩니다. 그 모델인 모리 헤타로는 어린 시절에 야마토초 가와카미로부터 고바무라에 양자로 왔다고 합니다.

기타야마 초·중 일관교 내에 위치하고 있습니다.모리 헤타로가 1933년 화재로 소실된 강당을 기부한 것에서 건립되었습니다.

후지초 구리나미지구에서 평판이 나있는 「다나카 빵」,그 초대는 대만생활시절 모리 헤타로 밑에서 수행을 쌓았다고 합니다.

2008년에 문을 연 후지초 최초의 공공도서관. 모리 헤타로의 관련자료를 수집·보존하고 있습니다.

모리 헤타로 출세의 땅·야마토초 가와카미의 역사 깊은 사원. 짓소인.사원의 정문과 돌계단 가까이에 모리 헤타로와 그의 부인 에이의 이름이 새겨진 작은 비석이 있습니다.



## 「캐러멜왕국」 사가

일찍이 일본 4대 캐러멜 메이커로 불린 것은, 모리나가 제과, 에사키 글리코, 메이지 제과, 그리고 니타카 제과였습니다. 그 중, 무려 모리나가·글리코·신코 3사의 창업자가 모두 사가현 출신! 슈거로드<나가사키 가이드>를 따라 과자문화가 번성한 사가는 캐러멜왕국이었던 것입니다.

## 후지쇼타가 낳은 실업가, 모리 헤타로

1869년 10월, 야마토초 가와카미 출생. 어린시절 양자로 고바무라(현 후지초)에 오게 되며, 호쿠잔 나카바루에서 제과점을 운영합니다.1905년, 부인 에이와 함께 대만으로 건너가 니타카 제과를 창업하게 되며, 대만산 바나나를 사용한 캐러멜이나 니타카드림 등을 발매해 크게 히트를 칩니다. 1930년에는 도쿄영업소, 5개의 공장(타이페이·오사카·도쿄·대련·지바), 타이페이의 16개 본점, 3개의 출장소(나고야, 후쿠오카, 고쿠라), 국내외의 451개의 특약점을 보유할 정도로까지 성장했으며, 종업원수는 1000명 이상에 이르렀다고 합니다. (참고 : 「과자점 경영의 변창비결」 1930년 간행, 「후지초지」 1968년 간행)

# 『望乡路』地图

『望乡路』的主人公藤正太和他的原型新高制药创始人森平太郎，两者之间有着很深厚的渊源。

小说中，主人公藤正太一家人种植杉树的山，现在建起了许多的别墅。

小说中的主人公正太作为藤家的上门女婿，从北九州来到了古场，而现实中的原型森平太郎小时候就作为养子从大河町川上来到了古场村。

北山小学中学一体学校，是森平太郎先生在昭和8年（1933年）为在火灾中损毁的讲堂捐款建起来的。

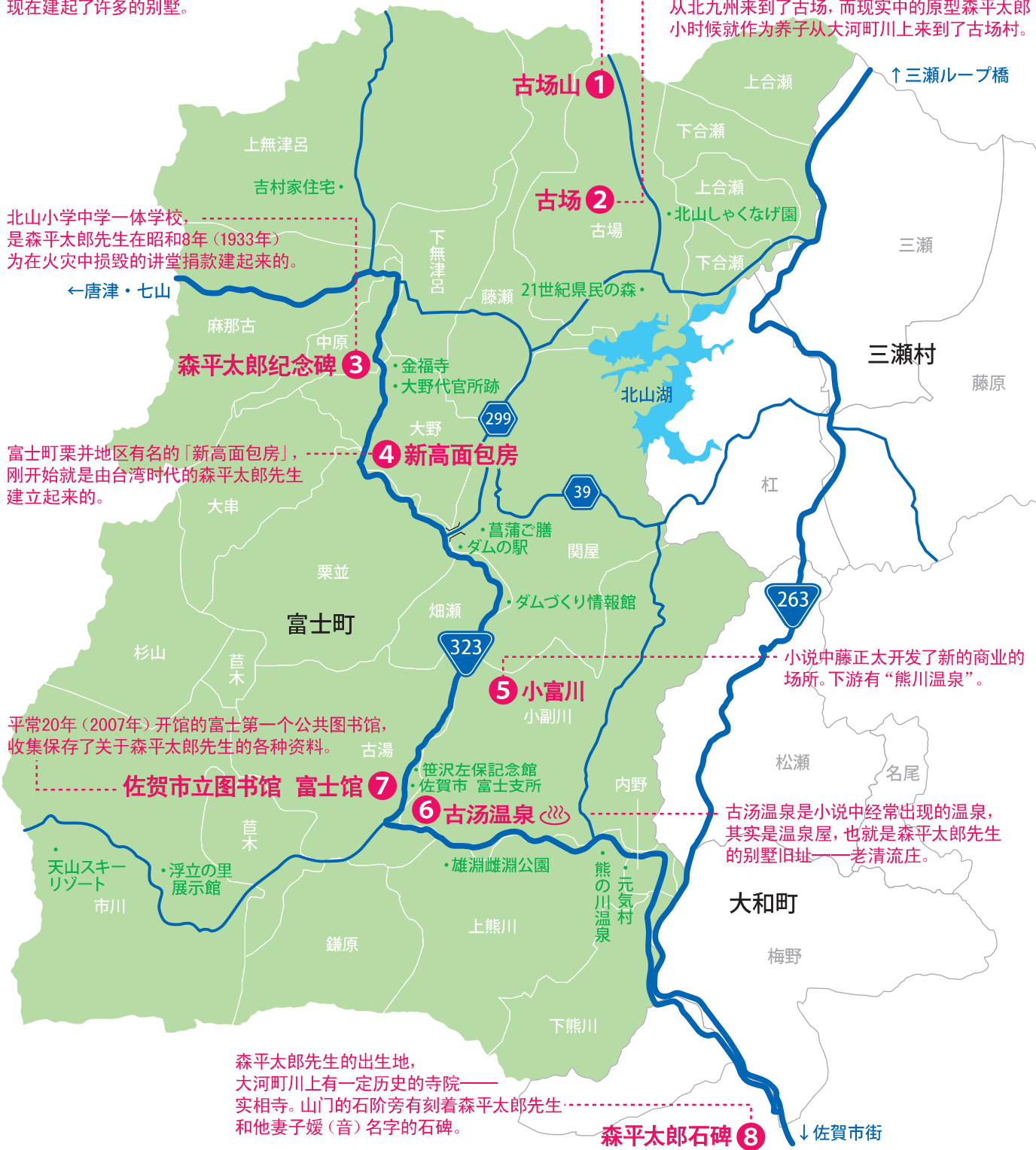
富士町栗井地区有名的「新高面包房」，刚开始就是由台湾时代的森平太郎先生建立起来的。

平常20年（2007年）开馆的富士第一个公共图书馆，收集保存了关于森平太郎先生的各种资料。

森平太郎先生的出生地，大河町川上有一定历史的寺院——实相寺。山门的石阶旁有刻着森平太郎先生和他妻子媛（音）名字的石碑。

小说中藤正太开发了新的商业的场所。下游有“熊川温泉”。

古汤温泉是小说中经常出现的温泉，其实是温泉屋，也就是森平太郎先生的别墅旧址——老清流庄。



## 糖果制造业王国——佐贺

日本曾经的四大糖果制造企业分别是“森永制果”、“江崎糖果”、“明治制果”以及“新高制果”。其中，“森永制果”、“江崎糖果”、“新高制果”三家公司的创始人都是佐贺出生。因“糖果街道”而糖果文化繁花起来的佐贺，当之无愧的被称为“糖果王国”

## 富士町出生的实业家——森平太郎先生

森平太郎先生1869年出生于大河町川上，小时候作为养子来到了古场村（现在的富士町）。在北山村中原经营一家糖果店。1905年和妻子媛（音）来到台湾创立了新高制果企业，使用台湾产的香蕉做出来的糖果，一上市就收到了热烈的欢迎。

1930年，在东京设立了营业所，并有五家工厂（台北，大阪，东京，大连，千叶），在台北有一六轩本店，并在名古屋，福岡，小仓设立了三个办事处，国内外达到了451家特约经销店的规模。从业人数达到了1000人以上。

（参考：「菓子店経営の繁昌秘訣」1930年刊、「富士町誌」1968年刊）